

人間関係形成の基礎的力を育む話し合い活動

～「他者のことを考える力」「伝え合う力」「折り合いをつける力」に焦点を当てて～

笹倉 美代 ・ 村上 理絵*

1. はじめに

広島大学附属東雲中学校（以下、本校と略記）の特別支援学級では様々な学習場面で話し合い活動を取り入れている。話し合い活動は、自分の意見を他者に伝えたり、他者の意見を聞いたりする場であると同時に、自分の意見が認められたり、他者の意見と比べたりして自分の意見を捉え直すための重要な機会である。また、話し合い活動によって得られた成果は、自分たちの意見が反映されていることから、その後の活動への意欲付けにもなる。

本学級の生徒は人と関わりたいという意欲が高いが、互いの違いやよさを認め合う態度や、他者との適切な関わり方が十分に身につけていない生徒が多い。話し合い活動について学習指導要領では、「集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりする（文部科学省，2018）」ことや「自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成する（文部科学省，2018）」ことを目標としている。また、話し合い活動を通して「筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活や社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをまとめることができるようにする（文部科学省，2018）」ことについてもねらうことができる。

話し合いや合意形成における必要なスキルを体得し、適切な自己表現や合意形成ができれば、よりよい人間関係を形成することができ、学校生活や社会生活でも活かすことができる。

本稿では、特別支援学級における生活単元学習の話し合い活動を通して、生徒たちが人間関係を形成する上での基礎となる力を育むことを目指した授業実践について報告する。

2. 研究の目的と方法

よりよい人間関係を形成するために必要な力は様々あるが、本稿では「他者のことを考える力」「伝え合う力」「折り合いをつける力」の3つに焦点を当てて研究を進める。

授業実践では、話し合い活動を通して、よりよい人間関係を形成する上で基礎となる力を、

- ①「他者のことを考える力」 =他者を意識して意見を出し合う力
- ②「伝え合う力」 =話し合いの流れや他者の発言を理解し、理由を添えて意見を言う力
- ③「折り合いをつける力」 =主体的に合意形成をしようとする態度

とし、本研究では、生徒たちがこれらを身につけるために必要な支援方法を模索することを目的とした。研究方法としては、生活単元学習の単元「学習発表会を成功させよう」における話し合い活動に焦点を当て、上記の3つの力の育成が図られるよう支援を行い、授業の撮影、動画の分析、支援方法の検討及び考察を行う。

*広島大学大学院人間社会科学研究科

Miyo SASAKURA, Rie MURAKAMI

Discussion to develop elementary skills of interpersonal relationships:

笹倉美代・村上理絵(2020),「人間関係形成の基礎的力を育む話し合い活動
～「他者のことを考える力」「伝え合う力」「折り合いをつける力」に焦点を当てて～」,
広島大学附属東雲中学校研究紀要「中学教育第50集」, 58-64.

Focusing on ‘understanding others’, ‘communicating’, ‘building consensus’

3. 授業計画

3-1. 教科名・単元名

生活単元学習「学習発表会を成功させよう」

3-2. 対象

第2学年知的障害特別支援学級（男子生徒3名，女子生徒2名）

3-3. 指導目標

- ・他者（学級の友だちや観客）のことを考えた発言をすることができる。
- ・話し合いでその流れや他者の発言を理解し，理由を添えて自分の意見を言うことができる。
- ・学級で協力しようという気持ちを表現したり，相手の意見を尊重したりして，意見を一つにまとめようとするすることができる。

3-4. 単元「学習発表会を成功させよう」の単元計画

単元計画を表1に示す。尚，研究の対象としたのは，主に話し合い活動を行った，【授業1】【授業2】
【授業3】（網かけ部分）である。

表1 単元「学習発表会を成功させよう」の単元計画

次	時数	学習内容	
1	1	発表内容を決めよう	大まかな構成を決める
	1		【授業1】10/30 ダンスの曲の候補について特徴を整理する *ダンスの曲の候補4曲…恋するフォーチュンクッキー・恋・ハンドクラップ・幸せの保護色
	1		【授業2】11/5 ダンスの曲を決める
	1		【授業3】11/19 歌う曲の候補から1曲を決める *歌う曲の候補2曲（Believe, ふるさとの2曲）
2	5	練習をしよう（ダンスや歌，セリフの練習）	
3	1	リハーサルをしよう	
4	1	振り返りをしよう	

4. 授業実践（行った支援と生徒の様子）

4-1. 柱1「他者を意識して意見を出し合う力」の育成のための支援

①具体的に相手をイメージできるようにするための対話

学習発表会では学級で歌とダンスを発表することが決まったが，「やりたい。」「できない。」といった発言が多く，自分がやりたいかやりたくないか，できるかどうかという，自己中心的な思考で意見を出していることに気付いた。

そこで，支援として「カッコいい姿を披露しよう」というキャッチコピーを示し，具体的に観客（保護者や他学級の生徒）をイメージできるように，生徒たちと対話しながら進めた。

「カッコいい姿」に関する生徒たちの具体的なイメージとして，表2に示したような発言が出た。生徒Dは1年生をイメージしているようで，先輩として尊敬されたいという思いや，昨年度と比べて成長した姿を見せたいと考えたようである。生徒Eは観客である保護者や他学級の生徒のことを意識できているように考えられる。一方，生徒Bや発言のなかった生徒A，Cは具体的にイメージすることが難しいようであった。

表2 生徒の様子

T	「カッコいい姿とはどんな姿？」
生徒B	「イケメン」
生徒D	「成長」「尊敬」
生徒E	「きれいに踊れる」

②「学級の全員ができるかどうか」について考えるための視点の提示

曲の特徴を書き出す場面では、支援として「自分がやりたいかどうか、できるかどうか」という視点でなく、「ダンスが苦手な生徒も含め生徒全員ができるかどうか」という視点で考えるよう指示した。もし難易度が高いダンスに決まると、踊りが苦手な人は困るということを確認し、その上で1曲ずつ、曲の特徴を書かせた。

生徒の記述(表3)には、「みんな」や「まわり」という単語が使用されており、学級の生徒同士のことは意識できている生徒が多いと考えられる。

表3 生徒の記述

- ・早いけどみんながたのしそうにおどれそうです。
- ・早い、むずかしそう。まわりができるのかなあ～と思いました。
- ・前にみんなでおだった(踊った)ことがあるからだいじょうぶだと思いました。
- ・きっと盛り上がる!みんなで楽しくおどれる。
- ・みんながしている。

4-2 柱2 「話し合いの流れや他者の発言を理解し、理由を添えて意見を言う」ための支援

相手の話を聞いて、他者が求めていることをくみ取り、それに対して適切に回答することは、コミュニケーションを取る上でも大切なことである。話し合いで、話題に沿った意見を言ったり、それまでに出了意見を踏まえて賛成意見、反対意見、質問をしたりすることができる話し合いがさらに深まる。しかし、知的障害を有する生徒たちにとっては、決して簡単なことではない。

①支援がなかった場合

うまくいかなかった事例を表4に示す。ダンスの曲の特徴を出し合った後、それを見ながら1曲にしぼる場面で、一人ずつ意見を出し合ったが、授業の残り時間が少なかつたため、意見を紙に書くことなく発表させた。すると、じっくり考えることができず、「自分はできるから。」「(以前やったことがあり)もう1回踊りたい。」などの発言から、短絡的に曲を決めた様子が見られた。

これらの様子から、意見をあらかじめ記述してから発表させなかった場合、他者を意識することは難しく、自分のもとの考えに固執しやすくなったり、それまでの議論を踏まえて考えることが難しくなったりしてしまうことがわかった。

表4 よいと思う曲とその理由を発表する場面での生徒の言動【授業1】

生徒Eは迷ってなかなか貼りに来ない。ネームプレートを貼る時に、友だちの方を振り返る。

(全員がネームプレートを貼り終わる。)

T 「理由を発表してください。」

生徒B 「自分はできるから。」(恋)

生徒C 「もう1回踊りたい。」(恋するフォーチュンクッキー)

生徒D 「キレキレでかっこいい姿をみせられる。」(ハンドクラップ)

生徒E 「繰り返しがあるし、きれいな踊りだと思った。」(ハンドクラップ)

②意見を記述し、発表させるという支援を行った場合

「紙に意見と理由を書かせてから発表する」という支援を行った場合では、多くの生徒が、それまでの議論で出した言葉を使用し、考えを発表できていた(図1)。議論で出した言葉を複数使用して理由を書くことができた生徒や議論の展開等を思い出すため、黒板を見てから書く生徒もいた。さらに、その後の議論でも、生徒たちは、相手の意見が書かれた紙を見ながら、反対意見や質問を言うことができていた。

このことから、話し合いの流れや他者の発言を理解し、理由を添えて意見を言うための支援として、まず紙に書いてから発表させることは有効であった。また、それまでの議論の流れを構造的に板書して

笹倉美代・村上理絵(2020),「人間関係形成の基礎的力を育む話し合い活動
 ～「他者のことを考える力」「伝え合う力」「折り合いをつける力」に焦点を当てて～,
 広島大学附属東雲中学校研究紀要「中学教育第50集」, 58-64.

おくことも大切であると考えられた。

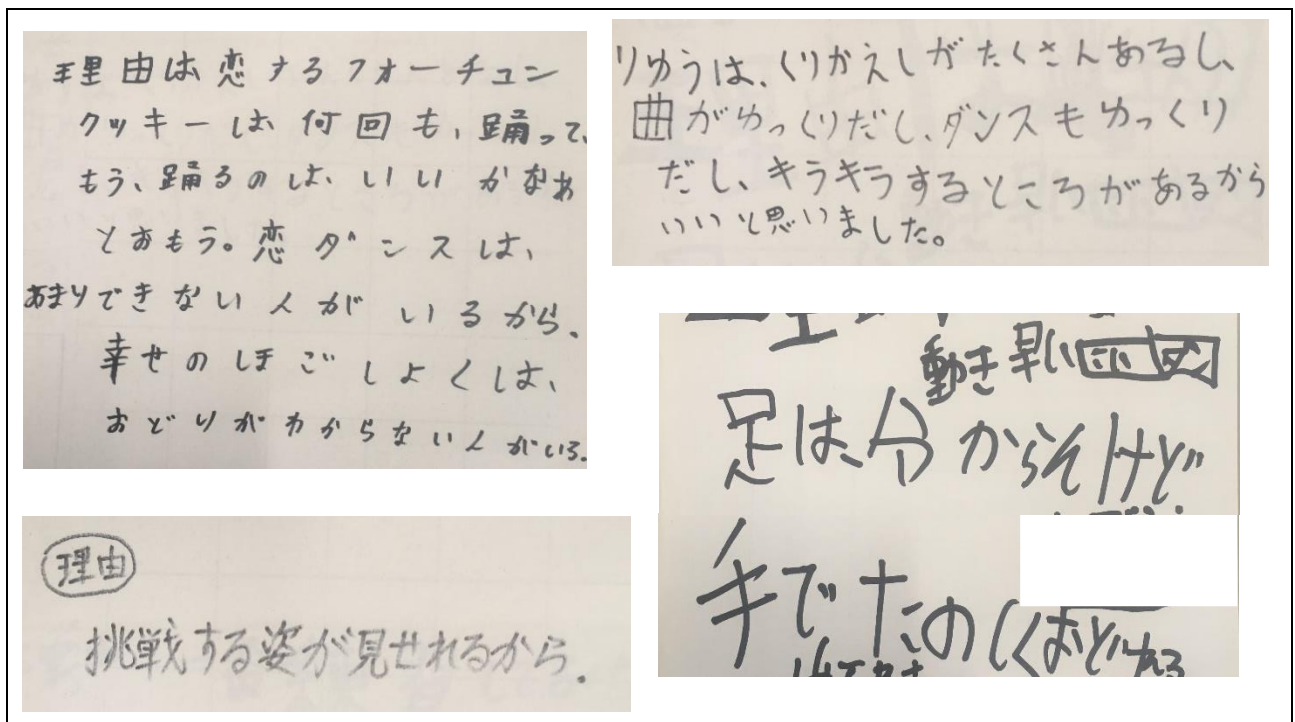


図1 よいと思う曲とその理由を発表する場面での生徒の記述【授業2】

4-3. 柱3 主体的に合意形成をしようとする態度を育てるための支援

① 比べ合い・可視化

合意形成を図る上で、あらかじめ示された条件に合うかどうかを判断し、合理的な意思決定を行う必要がある。しかし知的障害を有する生徒たちにとって、同時に複数の条件について考えることは難しい。そこで、出ている複数の案について比べ合う段階を大切にし、その結果を可視化することで、理解しやすくなり、合理的に思考できると考えられた。

実際の授業中の板書を図2と図3に示す。図2は、難易度という条件で、図3は経験の有無という条件で比較し、並び替えさせた。

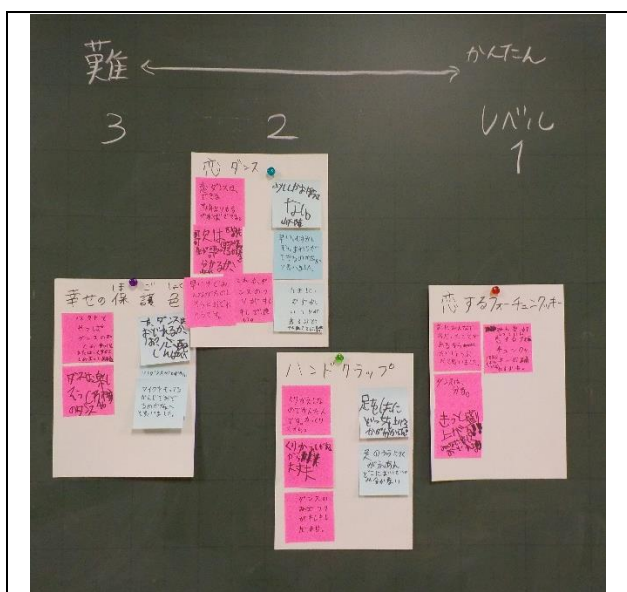


図2 ダンスの候補曲を難易度で整理した

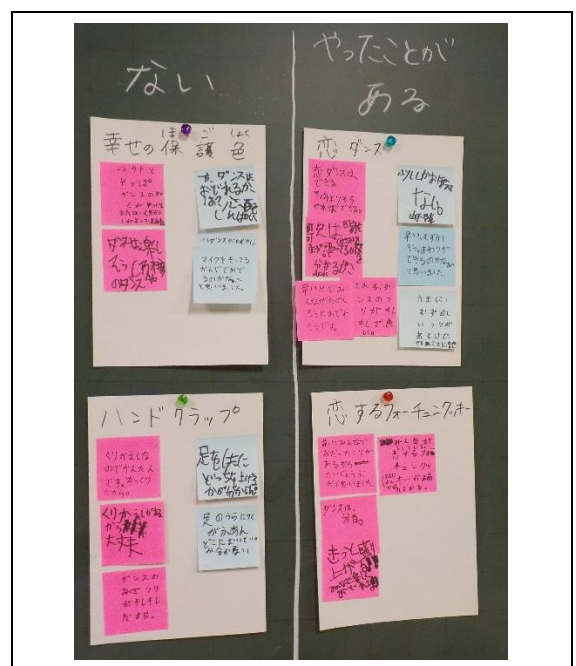


図3 やったことある・ないで分けた

②折り合い（譲り合う気持ちと折り合いの術）

自分自身の中で折り合いをつけ、意見を途中で変更するということが苦手としている生徒は多い。自分の意見に固執してしまい、合理的な理由はないにもかかわらず、途中で意見を変更できない様子や、自分の意見を変更することを「負けること」のようにとらえてしまい、どうにかして自分の意見を通そうとする様子をよく目にする。支援として、年度当初から様々な機会で、自分がやりたいことを他者に譲ることができた生徒を生徒全員の前で称賛してきた。自分の中で折り合いが付き納得できた場合には、譲ることはよいことであると伝えてきた。

その結果、表5にあるように、途中で意見を変更することを苦手としている生徒Bが、「少し考えさせて。次の時間が始まるまでには決められると思う。」と友だちに伝え、実際に休憩時間のあと、意見を変更し、1つの曲に絞ることができた。

また、我那覇(2016)を参考に、「折り合いの術」(図4)を作り生徒に示した。これまでに「条件つきOKの術」のように、少数派の生徒が納得するように提案した経験が多いことから、【授業2】の合意形成場面(表5)では、生徒自ら「ダンスが分からないという不安が解消できればOK」という条件を提案する様子が見られた。また【授業3】の歌う曲の候補から1曲を決めるという合意形成場面(表6)では、指導者が「成長した姿を披露できればOK」という条件を提案したが、曲を決めるだけでなく、どのようなことに気を付けて歌うかという話にまで発展させることができ、練習において、目標を具体的にすることにもつながった。

表5 合意形成を図る場面での発言【授業2】

T	意見を変える人は？
生徒B	難しい。
生徒A	譲れないってことだね。
生徒B	難しい。
生徒D	<u>じゃあダンス教えよっか。</u>
生徒AC	<u>ぼくもダンス分かんし。</u>
生徒B	<u>少し考えさせて。次の時間が始まるまでには決められると思う。</u>

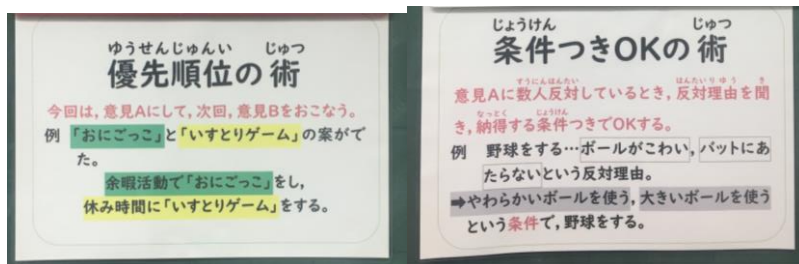


図4 折り合いの術

表6 合意形成を図る場面での発言【授業3】

(合唱する曲を決める場面で、2曲の特徴を整理し、条件に合うと思う曲とその理由を書いた。)	
生徒E	ふるさと。(曲が)長いからみんなが挑戦した姿を見せられる。
生徒B	いい提案。
生徒A	迷う。ふるさとは成長した姿が見せられる。ピリープは成長した姿が見せられない。
T	Eさん、成長した姿が見せられるなら、ピリープでもいい？
生徒E	うなずく
T	ピリープで成長した姿を見せるにはどうしたらいいと思う？
生徒C	<u>英語の歌詞、音が高い所をみんなで頑張る。</u>
生徒B	<u>友達に教えてあげる。</u>
生徒A	<u>音程に気を付ける。きれいな声で歌う。</u>

4-4. 学習発表会終了後の様子

図5に生徒の学習発表会の振り返りの記述(一部抜粋)を示す。自分たちでいつ練習するかを決め、練習時の準備片付けを行ったため、「練習をみんなでした」という記述や、ダンスが苦手あるいは体力に自信のない生徒は「疲れたが一生懸命に頑張った」「あきらめかけたときもあったけどがんばった」という記述が見られる。ダンスが苦手な生徒もあきらめずに練習し、ダンスが得意な生徒は、苦手な生徒に

笹倉美代・村上理絵(2020),「人間関係形成の基礎的力を育む話し合い活動
～「他者のことを考える力」「伝え合う力」「折り合いをつける力」に焦点を当てて～」,
広島大学附属東雲中学校研究紀要「中学教育第50集」,58-64.

配慮したり励ましたりすることができたのだと考えられる。

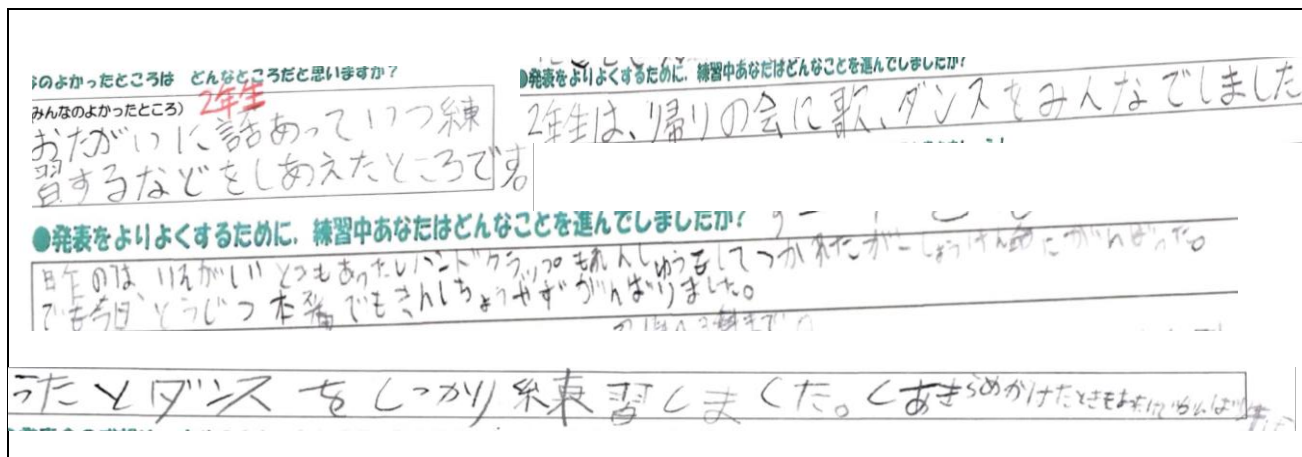


図5 振り返りの記述（一部抜粋）

学習発表会終了後の保護者アンケートでは、多くの生徒が練習を頑張っていることを家庭で話題にし、自宅で練習していることがわかった。また、みんなのために何かをしようと、家庭でも準備している生徒の様子を見て、「人のことを思いやる気持ちが育っている」と記述した保護者もあり、自分たちで決めた内容に、主体的に取り組むことによる生徒の変化は大きいと、改めて実感することができた。

5. 評価規準に対する達成度の比較

表7には、担任および日常的に生徒と関わりのある2名の教員の計3人によって実施した目標に関する本単元の学習前後の評価の結果を示す。各生徒の実態を「よくできている（3点）、できている（2点）、あまりできていない（1点）、できていない（0点）」の0～3点で評価し、生徒5人の平均点を学習前後で比較した。

表7 目標に対する評価（平均点）

評価規準	単元前	単元終了後
① 他者（学級の友だちや観客）のことを考えた発言をすることができる。	0.93	1.20
② 話し合いで理由を添えて自分の意見を相手に伝わるように言うことができる。	1.33	1.47
③ 学級で協力しようという気持ちを表現したり、相手の意見を尊重したりして、意見を一つにまとめようとするすることができる。	0.67	1.33

6. 考察

4. 授業実践（行った支援と生徒の様子）と5. 評価規準に対する達成度の比較を基に考察する。

6-1 他者を具体的にイメージするためには、対話と考える視点の提示だけでは不十分

4-1に示した支援及び生徒の様子から考察すると、「他者を意識して意見を出し合う力」の育成には、支援①具体的に相手をイメージできるようにするための対話および②「学級の全員ができるかどうか」について考えるための視点の提示は有効であったが、これだけでは不十分であった。より他者（本稿では観客である保護者や他学級の生徒）を具体的にイメージできるように、昨年度の学習発表会の動画や保護者の写真等を活用して保護者の気持ちを想像したり、インタビュー等をして実際に気持ちを聞き取ったりする必要があったと考えられる。

6-2 伝え合うためには、意見を記述してから、発表させることは有効

話し合いの流れや他者の発言を理解し、理由を添えて意見を言うための支援「意見を記述し、発表させる」は有効であったと考えられる。4-2①で示したように、支援がない状況では、議論で出た言葉を使用しない、あるいは1・2個使用するのみであった。しかし、支援があれば、それまでの議論の流れを

笹倉美代・村上理絵(2020),「人間関係形成の基礎的力を育む話し合い活動
～「他者のことを考える力」「伝え合う力」「折り合いをつける力」に焦点を当てて～」,
広島大学附属東雲中学校研究紀要「中学教育第50集」,58-64.

振り返りながら意見を言うことができている。表7の②「話し合いで理由を添えて自分の意見を相手に
伝わるように言うことができる」において、数値の変化があまり見られなかったが、理由を添えていう
ことがもともとできている生徒もいるため、変化があまり見られなかったと推測される。また、支援が
なければ議論や相手の発言から逸れて、自分の思いを発言してしまうため、話し合いの流れや他者の発
言を理解し、理由を添えて意見を言う力が身についたとは言い切れないと判断したためである。

6-3. 比較の仕方・折り合いのつけ方を支援すれば、合意形成につながる

主体的に合意形成をしようとする態度を育てるための、①比べ合い・可視化、②折り合いに関する支
援は有効であったと考えられる。表5・6から、合意形成しようと、少数派の生徒が納得するように、
条件を提案しており、生徒たちは折り合いのつけ方を知り、実践できているように思う。少数派の生徒
も、少し時間がかかったが納得して意見を変えることができている。自分の中で、葛藤もあるだろうが、
冷静に合理的に考えて、意見を変えるに至ったのだろうと考えられる。

表7の評価を見ても、③「学級で協力しようという気持ちを表現したり、相手の意見を尊重したりし
て、意見を一つにまとめようとする事ができる」では0.66点増加している。どの生徒もこの項目で点
数の増加がみられた。このことから、複数の案を比較して、論点が整理されていると、多数派の生徒も
条件を提案しやすく、少数派の生徒も納得しやすくなり、結果的に合意形成に向け、主体的に発言でき
たと考えられる。

7. まとめ

本稿では、話し合い活動を通して、生徒たちがよりよい人間関係を形成する上で基礎となる力を身に
つけるために必要な支援方法を模索した。その結果、「意見を紙に書いてから発表させること」、「複数の
案を、各条件について比較させること」「折り合いのつけ方を示すこと」の3つの支援が有効であること
がわかった。

一方で、課題としては、他者を具体的にイメージすることが難しかった点、生徒によってイメージし
ている内容が異なり、イメージを共有できていなかったことが挙げられる。障害の特性として、今現在、
目の前にいない人をイメージし、気持ちを考えることはとても難しいことであるが、支援方法は改善の
余地がある。

他者を具体的にイメージするための支援のあり方を見直し、「他者のことを考える力」の育成に励む
とともに、引き続き「伝え合う力」「折り合いをつける力」の伸長にも取り組み、生徒たちがよりよい人
間関係を築いていけるようしていきたいと考えている。

さらに、話し合い活動により、生徒たちは自分たちの意見が反映され、その後の活動への意欲は高ま
ったと、振り返りの記述や保護者アンケートからも、読み取ることができる。

今後も話し合い活動を取り入れ、自分たちで決めて、主体的に活動する場面を増やしていきたい。

【引用・参考文献】

広島大学附属東雲小学校・東雲中学校：「グローバル時代をきりひらく資質・能力」を育むための学びを
豊かにする授業の創造Ⅱ－教科等本来の魅力と学びのつながりの追求－，東雲教育研究会実施要項，
2019.

文部科学省，中学校学習指導要領，2017.

文部科学省，特別支援学校 学習指導要領，2017.

我那覇ゆり子，多様な意見を尊重し，合意形成を図る力の育成～意見を可視化し，折り合いの付け方
を考える話し合い活動を通して～，我那覇市教育研究所教育研究員報告書，2016.

文部科学省／国立教育政策研究所 教育課程研究センター，特別活動指導資料 みんなで，よりよい
学級・学校生活をつくる特別活動（小学校編），2019.